

山形県環境教育指針

これからの
環境教育
ここが
ポイント!

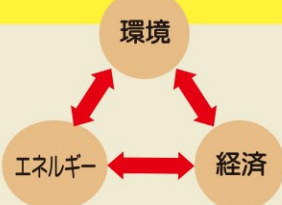


概要版

平成26年
3月改訂

「山形県環境教育指針」の冊子は山形県教育センターのホームページからダウンロードできます。

環境教育のねらいは人材育成



環境・エネルギー・経済の3つの視点を踏まえ、
「持続可能な社会」づくりを推進する観点から、
将来の山形を担う人材を育成します



環境サミット（新庄市立新庄中学校）

めざす児童生徒像

「山形愛の人」を
育てます

- 豊かな自然の価値を理解し、大切にできる
- 環境に配慮した行動がとれる
- 将来世代に配慮した行動がとれる
- エネルギー問題等の環境問題の解決に向けた具体的な行動がとれる
- よりよい社会づくりに責任を持って参画できる
- 未来につながる地域をつくるために行動できる
- 世界的視野に立って、山形の良さを発信できる

*: 山形県環境教育行動計画より



サステナタウン・プロジェクト
「ネパール派遣事業」
（県立東根工業高等学校 現 県立村山産業高等学校）



家庭・地域・事業者・NPO などとの協働した取組みを 推進

森林整備活動（環境ネットやまがた）

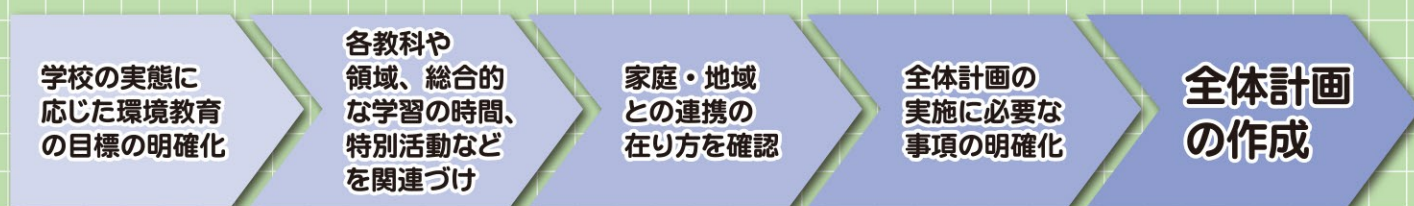
環境教育 実践の ために



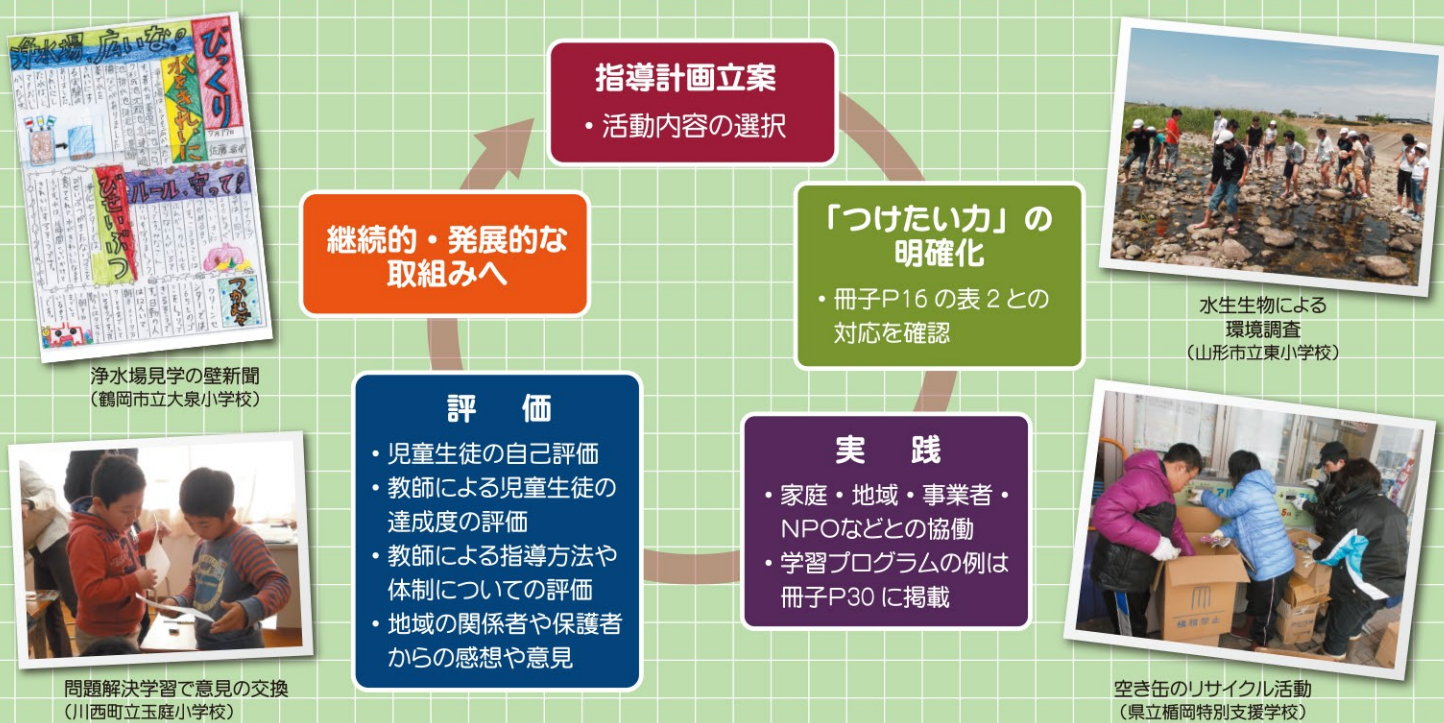
ねらいや評価などを提示し、授業づくりを支援

- ① 環境教育を通して児童生徒に「つきたい力」を明示 ⇒ 冊子 P 16
- ② 全体計画や環境学習プログラムを例示 ⇒ 冊子 P 29 ~ 43
- ③ 評価の目的と方法を例示 ⇒ 冊子 P 22 ~ 23

全体計画による目的の共有化



授業実践のために



Q1

現在、教科や総合的な学習の時間などでおこなっている活動は、環境教育としてはどのように位置付けたいのでしょうか。

A1

冊子P16の表2の「つきたい力」を見て、おこなっている活動がその中でどの要素に該当するかを確認して、活動の意義を押さえておきましょう。

Q2

一つの単元で、冊子P16の表2の「つきたい力」のすべてを取り扱わなければなりません。

A2

一つの活動で、表2の「つきたい力」のすべてを含むことはできません。年間、または入学から卒業までの学校生活を通して、「つきたい力」の各要素をバランスよく身に付けられるよう計画しましょう。